

日野原重明記念「新老人の会」石川



会 報 (65号)

発行日 2025年10月1日(水)

2025年度第2回会員の集い&昼食懇話会の開催

高 木 正 二

2025年度第2回会員の集い&昼食懇話会が8月23日(土)、金沢ニューグランドホテル4階「金扇」で会員20人の出席により開催されました。今回は県政出前講座を活用し、石川県金沢城二の丸御殿復元整備推進室課長の藤村秀人氏に「金沢城の復元整備」と題して、金沢城の歴史やこれまでの復元整備のとり組みと新たな取り組みである「二の丸御殿の復元整備」について講演していただきました。

冒頭、山内ミハル世話人代表が今年で戦後80年を迎えたことに触れ、自らの戦争中の四日市市での爆撃体験について説明し、戦争を絶滅しなければならないと挨拶しました。

全員で日野原重明先生が作詞作曲した「新老人の歌」を歌った後、講演会は始まりました。

講師の藤村氏は、まず金沢城の歴史として

- ・ 1546年の本願寺による金沢御堂（尾山御坊）の創建から一向宗の拠点。
- ・ 1583年の前田利家金沢城入城から前田家の居城として近世城郭であった。
- ・ 1871年に陸軍に管轄移管。
- ・ 1949年に金沢大学が開学。
- ・ 1996年に金沢大学の郊外転移に伴い、県が跡地を取得し公園整備を開始。

と、説明されました。

そして、金沢城は1602年に天守閣が焼失し、以後天守閣は再建されていない。



藤村講師

また、1631年（寛永8年）、1759年（宝暦9年）、1808年（文化5年）の3回にわたり大火により大きな被害を受けており、その後に再建された後期金沢城が復元の時代設定となっていると説明されました。

天守閣は復元の時代設定時には存在しないため復元対象ではないとの説明もありました。なお、二の丸御殿は、1881年（明治14年）に陸軍の失火に



講演に聞き入る参加者

より焼失したとのことでした。

次に金沢城公園の整備については、平成7年から3期に分けて順次整備してきたが、

- ・ 当初は地元企業に技術力・経験が無いとため、大林組などの大手企業と地元企業のJV（共同企業体）方式をとったが、現在は地元企業だけで対応可能。

・ 玉泉院丸庭園は兼六園より30年早く整備された庭園であるが、県立体育館の敷地になっていた。復元にあたっては、スピードを重視して昔の遺跡の上に2mの土を盛り造成した。などの逸話を披露されました。

続いて、二の丸御殿の復元整備について説明がありました。

二の丸御殿はこれまで整備してきた門や櫓とは異なり、藩主が住まい、政務の中心となった建物であり、欄間や、襖などの建具、内装としての障壁画や金具など御殿ならではの設えがあり、当初は整備の予定が無かったそうです。

しかし、二の丸御殿を史実に沿って復元整備することは、

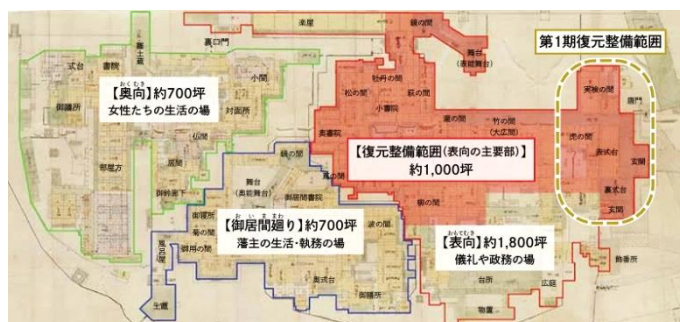
- ・ 金沢城の機能や役割の理解を深めるとともに、金沢城公園の価値や魅力を高める。
- ・ 伝統的な建造技術や工芸技術により、御殿の建築や内外装を再現することは、本県の伝統工芸の技を発揮し次代に継承するうえでも大きな役割を果たすことが期待される。

ことから、平成30年「金沢城二の丸御殿調査検討委員会」を設置し、検討を進めた結果、儀礼や政務の場であった「表向（おもてむき）」のうち飾金具や障壁画など御殿ならではの装飾が見られる主要部を対象とし、令和6年度から玄関や式台周辺を対象とする第1期復元整備工事に着手しているとのこと。

令和6年度 仮設建造物（素屋根）＋電源等の設備工事

令和7年度～令和12年度 建築躯体工事

令和13年度～令和15年度 第1期整備（玄関・式台等）



二の丸御殿惣絵図



二の丸御殿玄関復元イメージ

藤村氏は、「県では二の丸御殿整備のVR映像を金沢城公園鶴の丸休憩館で公開しているほか、県のホームページでも縮小版を公開しているので是非見て欲しい」と話し、講演は終了しました。

参加者から工事費についての質問があり、第1期整備で150億円を予定しており、第2期整備は面積が2倍あるとの回答でした。

昼食後、全員で「ふるさと」を歌い、会員の集いは終了しました。



《心に残る日野原先生の言葉》

日野原重明著「生きていくあなたへ」読後感

松田 隆一

不勉強ながら、日野原重明先生の著書を殆ど読んでおりません。今回手に取ったのは表題のそれです。



日野原先生は、死が怖くないかと訊かれて、恐ろしいと答えています。しかし「残されたかけがえのない時間を無駄にせず、与えられた使命を全うできますようにと、祈りながら暮らしています」の言葉に多いなる希望を感じます。いえ、ただ感じるというだけでなく、そうあるべき、と強い共感を覚えます。

幸い私も今やり遂げたいと考えていることがあります。もし出来なければ恥ずかしいので、ここで大声では言えませんが、共感を覚える、と書きたいです。

先生が引用されている、新約聖書ヨハネによる福音書十二章二十四節の

「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。」

だが、死ねば、多くの実を結ぶ。」があります。

この一節、最初読んだ時、意味が不明でした。私はクリスチャンではなく、聖書を全て肯定的に読むことはしませんが、最初文脈がおかしいと思ったのです。

ここは「死」という文字を使うのではなく、地中に入って芽を出し、生育し・・・の意味のようですから、そう書くべきと。

「地に落ちて死ななければ、一粒のままである」とありますが、常識的には死ななければ、一粒のまま、はおかしいのでは、と考えました。種は死ななければ芽が出て、その結果多くの実を結ぶ、と書くべきでしょう。詳しいことは、説明がやや複雑で、ここでの許された文字量の関係で他書に譲るとして、日野原先生が書かれた主旨について、感じたことを。

先生は奥様をはじめ、たくさんの親しい人

を亡くされました。亡くなった後の方がむしろ心の中に鮮やかになったと書いておられます。そして、冒頭のように「死」を恐ろしいと書いておられながら、その晩年を心豊かに過ごされたことを記しています。

一粒の麦は無数の麦の誕生につながると書かれています。先生の著書を再度ひも解くと、私達もその一人一人、一粒一粒であると実感させられます。時に先生の著書に触れ、その心境を察することで、後に続くことを認識することも大切なことと思いました。

「老いを生きる」生活雑感

「徒然なるままに」

井口 紀美

「時に咎め時に許して物忘れに慣れつつ
暮らす老い二人」

高校時代の先生の短歌を思い出し、まさしく今はこの境地に至ったことを実感しています。「あれ」、「それ」、「これ」でどうにか足りている現況に、最近では人名が出て来ずお互いに「あいうえお」からさがしてもたどり着けず、やっと出てきた頃には話題はとっくに過ぎております。以前と変わらない居間のテレビにボリュームを上げ眼鏡をかけて近づきつつも、台詞の早口に聞きなれないタレントの名前と顔が覚えられずにNHKの大河ドラマは夢の中に消えていきます。

今年は昭和を数えて百年になりました。八十歳を過ぎた我々は戦中、戦後から歩んできた日本の歴史の様な存在になりましたが、たかが八十年といっても最近の世の中の進歩には目覚ましいものがあります。

同級生とファミレスに入った時、メニューに書かれている品名が分からない。ウエイトレスさんに聞こうと待つが誰も来ません。隣席を見ると何とロボットが黙々と食事を運んでいます。最近では現金は持たずカード払い、情報はスマホやパソコンから簡単に得ることが出来ます。更にコロナあり異常気象ありで、不要な外出は当然控えめになってきます。

いろいろな面で高齢者の我々にとって人々とのコミュニケーションの場がだんだん少なくなってきました。このような時に友人から「新老人の会」へのお誘いがありました。

サミュエル・ウルマンは「年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いが来る」と言っています。私達の動きは年齢と共に緩やかになってきているのに、世の中の流れはすべてにおいて怒濤の如く速くなってきています。

私と同年代の頃の父母の写真を見て、生活、衣服などの今の自分達との変わりように驚きつつも、体力のある限り新しい事に挑戦し、まだ楽しみを見つけ出そうとごく自然に向き合っている自分がいることにも驚きを感じています。日野原先生の遺訓には及びもつきませんが、私自身はやりたかったことを再び学び、新たな友人達と笑顔で語り合い、小さな喜びでも共に分かち合いながら、残りわずかな若さを出来る限り保っていければと思っています。

75歳の壁

高 木 正 二

近年、健康寿命ということが話題になっています。健康寿命とは、健康上の問題で日常生活が制限されることなく健康的に生活できる期間のことで、男性は72.57歳、女性は75.45歳とされています。

私も75歳を超え、いわゆる後期高齢者になって肉体的、精神的に衰えを感じるようになりました。

私は決して頑健というタイプではありませんが、それでも歩くことが好きで、大病をすることもなく、50代までは白山に日帰り登

山をするなど体力に自信がありました。60代になっても、近隣の公園まで往復一万歩（約8km）を1時間20分で完歩するなど歩行速度も人並み以上と自負し、2023年2月にウォーキング中、凍結した路面で滑り左膝蓋骨を骨折した時も、49日の入院中・後も医師から年齢の割に回復が早いと褒められたものです。

しかし、2024年2月の誕生日（満75歳）の前後から、老化による症状が次々と現れ始めました。白内障の進行による眼内レンズ手術、突発性難聴、前立腺肥大等々です。また、歩行速度が落ち、長距離の歩行が辛くなるなど下半身の衰えも感じています。物忘れも自覚するようになり、後期高齢者とはこういうことなのだと妙に納得し、「75歳の壁」を痛感しているところです。

ただ、周りを見ますと、「新老人の会」には80歳を超えても自家用車を運転あるいは公共交通機関を利用して自力で会場に通い、サークルに参加して運動や創作活動を行う諸先輩が多くおられます。日野原先生の教えを積極的に生活に取り入れ、健康体操などでフレイル対策を、また、「創める」ことで精神の活性化に努めるなど、やはりしっかり努力をしておられるのだと感じています。

私の最近の生活習慣を顧みると、読書、パソコン作業、テレビと椅子に座る時間が長く（日本人の平日に座っている時間の長さは世界一）、ウォーキングの時間は減少し、市民農園での農作業は最小限で済みますなど、以前に比べ運動時間が短くなっています。

75歳の壁を乗り越え健康寿命を伸ばすため、今一度運動を習慣づけるとともに、新たなことにチャレンジすることを心がけたいと思っています。日野原イズムの実践を！！

第3回会員の集い&昼食懇話会開催のお知らせ

日 時：2025年11月8日(土) 11:00～13:00

講 師：石 井 慎 二 氏（フリーナレーター）

演 題：「声も若返ろう」

場 所：金沢ニューグランドホテル

会 費：3,500円(昼食代を含む)

※同封の返信用ハガキに必要事項を記入し10月30日(木)までに投函してください。



第17回会員余技作品展の開催

高 木 正 二

第17回会員余技作品が7月29日(火)～8月3日(日)の日程で、石川国際交流サロンで開催されました。

期 日：2025年7月29日(火)13:00～8月3日(日)15:00

開館時間：10:00～18:00

場 所：石川国際交流サロン

展示種目：洋画、写真、絵手紙、俳句、水彩画、
俳画、パステルアート、パンフラワー、
陶芸、木目込み、着物リメイク、折り紙

出展者数：21名 出展数：70点 来場者数：120名

会員の高齢化や減少が進む中、今回は出展者数、出展数とも
昨年を上回り、来場者数も昨年を10名上回る結果となりました。

今回も、女流画家協会の会員で、サークル「絵手紙」の講師を
務めていただいている久保恵美子さんが洋画「ベル」を特別出
展して下さいました。

また、80歳代の3人の新入会員が写真、絵手紙、水彩画に挑
戦し、今回の作品展に出展を果たしました。

会員それぞれが日野原先生の教えである「創めること」に積極
的に取り組んでいることを本当に心強く思っています。来年も
会員余技作品展を充実した内容で開催したいと思います。皆さん
来年に向けて創作準備をお願いいたします。



展示作品を鑑賞する来場者



洋画「ベル」



俳句の展示



絵手紙の展示



展示室内の展示

川 柳

(順序不同)

大島 恒 治

駆除ということは悲しき熊退治
杖ならばついてみたいな仕込み杖

数 澤 輝 夫

ツルが舞うわが家の庭園夢だった
カエル君とやの葉陰で日々待ちぼうけ

新 川 光 子

復興を強く後押し熊登祭り
酷暑中遊ぶ子ら無し夏休み

高 木 要 子

町内の草刈り主役は中高年
喪主欄に兄弟連名ちらはらと

中 谷 茂 次

ミサイルが餓死寸前のガザに降る
卒業の証拠無いけど辞めません

福 岡 恒 忠

手のしびれ老化と医者とはとりあわず
車駄目スケジュール表真白け

高 木 正 二

若者は悩み相談もAIに

日々の俳句 花明り

(順序不同)

宮下 美智子

百の梅干しある仕草母譲り

生計の灯谷間に見えて星月夜

福岡 恒忠

向日葵や明るく熱く立つ姿

風鈴の奏でるたびに匂ひけり

大島 恒治

枯れ松葉ひろうて炊の薪とせむ

枯葉積む蟬で封印せし手紙

北川 むつみ

お彼岸やカラスも一緒に墓参り

夏雲をカメラでねらい時が過ぎ

新川 光子

無花果や暑さに耐えず実がちらり

梨むくや甘き雫に頬緩む

次回作品募集

		す		
		こ		
つ	ず	し	こ	す
		ず		
		つ		

はめ字 作品

はめ字の面白さは、作る人のアイデア次第で全く違う文章が出来るところです。風情や哀愁といった日本語の面白さを感じながら創作にチャレンジして見ませんか。多数のご応募をお待ちしています。

締め切りは11月20日 高木正二まで

成	ダ	く	く	規
功	イ	り	計	そ
し	え	か	り	く
た	ッ	え	よ	正
よ	ト	し	う	し

高木 要子

算	て	く	ー	教
な	願	り	と	室
し	え	か	り	く
却	ど	え	つ	ー
下	予	し	け	ラ

飯田 世三

会	常	く	年	耳
話	に	り	寄	遠
し	え	か	り	く
よ	顔	え	に	な
う	で	し	は	る

新川 光子

在	想	く	ふ	一
り	い	り	た	人
し	え	か	り	く
姿	が	え	の	ら
を	く	し	時	し

福岡 恒忠

掴	優	く	頭	く
み	勝	り	剃	り
し	え	か	り	く
ま	い	え	込	り
で	冠	し	み	に

飯田 世三

ゆ	お	く	ど	た
る	さ	り	な	た
し	え	か	り	く
て	て	え	ご	ぞ
よ	よ	し	え	と

大島 恒治

心	詩	く	恋	明
地	に	り	な	る
し	え	か	り	く
た	が	え	せ	潔
し	く	し	ば	い

福岡 恒忠

腰	て	く	は	あ
高	教	り	不	の
し	え	か	り	く
相	て	え	だ	み
撲	も	し	と	手

飯田 世三

待	災	く	ひ	湧
つ	害	り	と	水
し	え	か	り	く
せ	ん	え	往	ん
い	助	し	復	で

高木 要子

だ	お	く	は	う
ま	し	り	か	ま
し	え	か	り	く
か	ま	え	ご	い
た	す	し	と	く

大島 恒治

変	歴	く	り	紛
化	史	り	策	争
し	え	か	り	く
な	い	え	や	闘
い	像	し	く	憤

新川 光子

た	絶	く	の	山
の	景	り	ぼ	が
し	え	か	り	く
む	ん	え	下	縦
旅	望	し	り	走

登山家

編集後記

今年の会員余技作品展は8月3日に無事終了しました。開催期間中は、酷暑という言葉どおり猛烈な暑さでしたが、皆様のご協力のお陰で出展者数、出展数、来場者数とも前年を上回る結果となりました。出展された方には作品集も作成しましたのでお楽しみに。

会報が読んで楽しいと同時に会員同士の交流の場となることを願っています。趣味の楽しさ、サークルの呼びかけなど皆様の投稿やご意見を寄せ下さい。お待ちしております。(新川光子記)

次号の発行は2026年1月1日、原稿締切日は2025年11月20日です。字数は原則800字程度でお願いします。

送付先：高木正二

〒920-3114 金沢市吉原町ヨ 190 番地

E-mail sytakagi@sea.plala.or.jp

編集責任者：世話人代表 山内ミハル

編集委員：鈴木雅夫、新川光子、福岡恒忠、高木正二

印刷：「新老人の会」石川 事務局